

地域金融機関

小規模医療・介護融資

国保・社保から回収に関心

地域金融機関で、コロナ禍により資金繰りに悩む小規模の医療機関・介護事業者向け融資の手法に関心が集まっている。電子記録債権ソリューションを展開するTranzaxの「医療・介護ファイナンスサービス」を活用したもの。診療報酬や介護報酬の債権を担保にした融資の際

に、国の信用力で迅速に審査でき、債権は国民健康保険団体連合会(国保)や社会保険診療報酬支払基金(社保)から直接回収する仕組みだ。

7月17日から城北信用金庫(東京都)が全国に先駆けて開始。「地域銀行や信用金庫など約80機関から引き合いがある」(Tranzax)。

地域金融機関では、都市圏の医療機関や介護事業者への融資は大手・中堅が中心。小規模の先は、診療時間中に面談できないなどの理由で、手

が回らないことが多い。そのため、資金調達は金利の高いノンバンクが中心。コロナ禍で経営を圧迫する事例が増えている。

同社サービスは、国保・社保が医療機関や介護事業者に支払う診療報酬や介護報酬を、専用の信託口座に集約。返済金(利息を含む)は対象金融機関に、残金は融資先に資金が振り分けられ、入金される仕組み。小規模先でも国保・社保の信用力で2〜4営業日で迅速審査。金融機関にとっ

て、ノンバンクより低金利の融資で差別化できる。

城北信金では、運転資金は月額診療・介護報酬請求額の8割まで、設備

は所定金額内が融資限度額。診療時間中の面談を配慮しダイレクトメールや電子メールの非対面ツールを活用する。「開院直後の資金繰り、オンライン診療機器などの設備投資を支援したい」(ソリューション事業部)という。

【お問い合わせ先】

Tranzax 株式会社 総合企画部長 藤崎 聡

Tel : 03-5510-8077

Email : fujisaki@tranzax.co.jp

HP お問い合わせ画面 <https://www.tranzax.co.jp/contact.php>